



タイトル：それってあなたの見え方ですよね ～その情報ホントに正しい？～

ファシリテーター（グループ）：小田淳史 南雲結夏 小松知生 宮川寅之介 佐藤倅

1：本ワークショップの要旨

近年の情報社会の発展に伴い、メディアの影響力が強まっている。

しかし、その情報は本当に正しいのだろうか？私たちのワークショップでは実際に起きた出来事を取り上げて、複数の情報を多角的かつ批判的に読み解くことの重要性について学ぶ。それを通じて、参加者たちが周りに流されずに自分たちの考えを持つための第一歩としたい。

SDGs：④⑩⑩⑩⑩⑩

2：本ワークショップの目的(共に考えたいこと、実現したいこと)

このワークショップを通して、この世の中にあふれる情報に流されず、自分の意見や思考を持ってもらえるようにする。またメディアを正しく使えるようになってほしい。

3：本トピックをとりあげる理由

情報化社会の中で、世の中には真偽不明な情報が溢れている。その情報をすべて誰かと審議してもしきれない。そのため自分ではこの情報が正しいのか、正しくないのか自分で判断できる能力を身に付けられるようになってほしい。また、情報を見極めるだけでなく、見極めたのち、自分で自分の正しいと思う意見を言えるようになってほしい。

4 : 活動過程 (使用時間 : 120分 参加人数 : 1組34名 2組36名)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材 ・備品	注意事項
起 : 場づくり (12分)	名札シール来たたり人から記入			名札シール × 6	・「〇〇さん」呼びで固定
	全員で前に出て挨拶 (1分)	活動する大学生の紹介。	誰が同じチームで活動するのかわかるようにするため	パソコン USB ポインター タイマー バインダー	・メインファシ、 チームファシ、 ヘルプ全員前へ
	今日の流れ グランドルール (2分)	グランドルールをまとめた模造紙を黒板に貼っておく。	参加者がワークショップで何をするのか知ってもらうため	模造紙(グランドルール用)・ベル	
	チーム内で自己紹介 : 5マスウィンドウズ (7分)	中央のマスには自分の呼ばれたい名前を書き、その周りの4マスに「好きなこと」や「大事なもの」を書く。チームに向けて見せた後、最も反応が大きかった項目について詳しく説明する。質問する人は、時計回りで次の人。	参加者同士が相手のことをより理解しあうため	紙×6+1(大学生の分) マーカーペン(黒固定) × 7 項目リスト × 2	・名前の周りに4つ自分の好きなことなど書く ・大学生一つ異質なものを書く

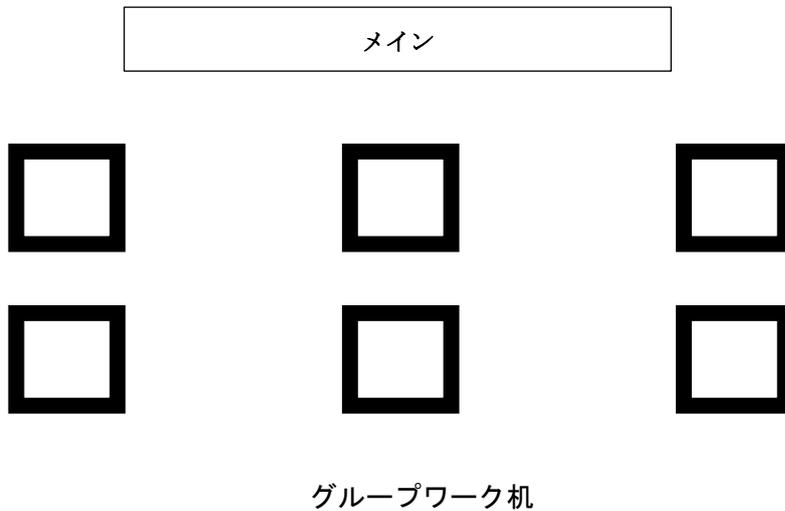
<p>承転①：導入（11分）</p>	<p>目的提示 活動のテーマ紹介（2分）</p> <p>そもそもメディアとは？（6分） クイズ：2分 答え合わせ：2分 解説：2分</p> <p>リテラシーとはなにか？（1分）</p> <p>ここまでの説明を踏まえて、「メディア・リテラシー」について詳しく説明（3分）</p> <p>なぜメディア・リテラシーが求められるか（1分）</p>	<p>活動中の目標やテーマである「メディア・リテラシー」について紹介。</p> <p>クイズ①：クイズ用紙に一般的な種類のメディアを出し、その中で参加者がメディアだと思うものに印をつけてもらう。 答え合わせ：メインが説明 ポイント：私たちの身の周りにはたくさんのメディアが存在している！</p> <p>「メディア・リテラシー」の「リテラシー」とは何か説明する。</p> <p>メディア・リテラシーについて、定義なども含めて詳しく解説する。</p> <p>意義や必要性について説明し、後半に繋げる。</p>	<p>参加者がメディアだと思うものを可視化してもらい、班で話し合ってもらった後に、身近にメディアが存在していることに気づいてもらう。</p> <p>メディア・リテラシーに入る前の導入にする。</p> <p>ワークショップの目標やテーマについて再確認してもらう。</p> <p>後半の活動に入る前にこの内容を学ぶ意味について触れる。</p>	<p>クイズ用紙×6</p> <p>模造紙（メディア、リテラシー、メディア・リテラシーの3つを提示）</p>	<p>・この時点では詳しい説明は行わない</p> <p>・ポイントについて、楽しみながら伝えられると良い</p>
--------------------	---	--	---	--	--

<p>休憩(5分)</p> <p>承転②：発 展(42分)</p>	<p>休憩前の振り返り(1分)</p> <p>イラスト 伝言ゲーム (12分) 《配分》 説明：4分 ゲーム：5分 答え合わせ：1分 解説：2分</p>	<p>重要語句や意味を振り返る。</p> <p>説明：ルールを説明した後、大学生がお手本を見せる。(3人で) 答え合わせ：最後に文字を書いた人から反時計回りの順に答え合わせを行う。 絵を描く→インターバル→文字を書く→インターバルの行程を3回行う。</p>	<p>生徒の記憶定着を図る。</p> <p>人によって情報の受け取り方と伝え方が違うことや間に人が入ることによって形が変わってしまうことを体感してもらう。</p>	<p>お題の紙 (メインに予備2枚) バインダー・裏紙セット×6 (5マスウィンドウズで使用したペンを使用)</p>	<p>・やや変則的</p> <p>・班ごとにお題が違う ・高校生の数が6人だったらそのまま、5人だったらチームファシが1人目に入りお題から絵を書く 絵を描く 50秒 文字 20秒 インターバル 10秒</p> <p>メイン交代</p>
<p>司会交代</p>	<p>発信者になろう!(25分) 説明：2分 個人：10分 グループ：8分 ギャラリーウォーク:3分 解説：2分</p>	<p>説明：メインがお手本シートを使って見出しとタイトルの違いについて話す。 個人：トニーのストーリーを見てもらい見出し・タイトルを書いてもらう。 グループ：それぞれの捉え方の違いについて話す。グループで話すのは1人2分程度の話す時間を設ける。 共有：他の班の人の記事を見てもらう。</p>	<p>グループ・共有：他の人が書いたタイトルや見出しが人によって違うということを経験してもらう。</p>	<p>お手本×2 反応リスト×2 ストーリーの紙×6 見出しをまとめるシート×6</p>	<p>個人：サポートしやすいようにトニーのストーリーを把握しておいてください。</p> <p>グループ：班全員がしゃべれるように話を振ってもらいたい。</p>

<p>休憩（5分）</p>	<p>危険性について触れる（4分）</p>	<p>現実そのものではないメディアと情報の性質について、前のワーク2つをふまえて説明する。</p>	<p>メディアの性質やその危険性について知ってもらい、それを読み解く力が大事だということを伝えたい。</p>		<p>・やや変則的</p>
<p>承転③：終結（31分）</p>	<p>休憩前の振り返り（1分）</p>	<p>メディア・情報の危険性について振り返る。</p>			
	<p>どう向き合うか批判的思考・耐性思考（3分）</p>	<p>メディア・情報との向き合い方について、大学生からヒントやコツを紹介・説明する。</p>	<p>情報を正しく見極めることの重要性を伝え、同時にそれがとても難しいことであることも伝える。</p>		<p>・メディア・情報との接する上ですべての答えではない。（考え方は時間の経過とともに変化する）</p>
	<p>具体例を提示（2分）</p>	<p>批判的思考・耐性思考を用いてメディアを読み解くときに用いた場合どうなるのか提示する。</p>			

	<p>To share or not To share (25分)</p> <p>説明：2分</p> <p>個人実施：13分</p> <p>振り返り：5分</p> <p>クラスインタビュー：5分</p>	<p>アプリを用いて、仮想の SNS 上で情報を見極める実践を行う。</p>	<p>ゲーム感覚で実践を行うことができる。批判的思考・耐性思考の実践に繋げる。</p>		<p>・タブレットは生徒1人につき1台使用</p>
<p>結：まとめ (8分)</p>	<p>活動の振り返り (1分)</p> <p>目標達成度 (1分)</p> <p>活動を通して伝えたいこと (4分)</p> <p>終わりの挨拶 (1分)</p> <p>アンケート回答 (1分)</p>	<p>流れ、目的確認</p> <p>目標達成できたか聞く</p> <p>ワークショップを通して伝えたい想い話す</p> <p>全員であいさつ</p>	<p>ワークショップの目的を振り返ってもらう。</p> <p>目標を理解して活動していたか</p>	<p>QR コードの紙</p>	<p>メインファシ、チームファシ、ヘルプ全員前へ</p>
<p>予備：(6分)</p>					

6：会場のセッティング



7：使用する教材

パソコン、USB、ポインター、×2、バインダー×2、グラドルールシート、メディア・リテラシー重要語句シート、名札シール、裏紙、ペン、伝言ゲームお題の紙、ストーリーシート、見出しシート、お手本

8：参考資料

- ・古関 一也 (2007) 『グローバル・クラスルーム 教室と地球をつなぐアクティビティ教材集』 明石書店 (最終閲覧日 2024 年 2 月 12 日)
- ・水越 伸 (2009) 『メディア・リテラシー・ワークショップ 情報社会を学ぶ・遊ぶ・表現する』 東京大学出版会 (最終閲覧日：2024 年 2 月 12 日)
- ・中橋 雄 (2023) 『10 歳からの図解でわかるメディア・リテラシー「情報を読み解く力&発信する力」が、身につく本』 メイツ出版 (最終閲覧日：2024 年 2 月 12 日)
- ・李津娥 (2023) 『クリティカル・メディ批判の社会心理学』 (最終閲覧日：2024 年 2 月 27 日)
- ・林直哉 (2007) 『高校生のためのメディア・リテラシー』 ちくまプリマー新書 (最終閲覧日：2024 年 2 月 27 日)